

2024 年 2 月 29 日

2023 年度 聖路加国際大学大学院
看護学研究科修士論文

病院看護師のワーク・エンゲイジメントと関連要因の検討

Work Engagement and Its Related Factors among Hospital Nurses in Japan

22MN019

田島 実里

要旨

【目的】本研究の目的は、病院に勤務する看護職を対象に、ワーク・エンゲイジメントと先行要因との関連を明らかにすることである。

【方法】看護部長、副部長を除く、全国の病院に勤務する看護職を対象とした横断研究である。調査は、2023年6月23日から2023年8月25日の期間に、インターネットを介した無記名自己記入式質問紙にて行った。質問紙には、17項目の個人特性、ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度9項目版、2次元レジリエンス要因尺度、新職業性ストレス簡易調査票の仕事の負担尺度、仕事の資源尺度が含まれた。分析方法は、統計ソフトIBM SPSS Statistics (Ver.29.0.1.0) を用いて、ワーク・エンゲイジメントを従属変数とした重回帰分析を行い、関連する先行要因を探索した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号：23-A007)

【結果】調査票を2161部送付し、回収数は281部(13.0%)、有効回答数は280名(99.6%)だった。対象者のうち看護師が97.1%を占め、45歳から49歳の年齢層が最も多かった。ワーク・エンゲイジメントの平均得点は23.43(SD=9.96)点であり、日本における病院看護師を対象とした研究と類似した点数であった。ワーク・エンゲイジメントを従属変数とした重回帰分析の結果、関連がみられた因子は、養育者の有無($\beta=.166$)、資格(特定行為に係る看護師の研修を修了した看護師、CNS、CN、CNE)の有無($\beta=.107$)、作業レベル資源($\beta=.325$)、事業場レベル資源($\beta=.201$)、資質的レジリエンス($\beta=.204$)だった。また、職位別では、看護師長の関連因子は、介護者の有無($\beta=-.263$)、資質的レジリエンス($\beta=.738$)、副師長、看護主任、看護スタッフの場合では、養育者の有無($\beta=.200$)、CNS等の資格の有無($\beta=.132$)、仕事の要求度($\beta=.123$)、作業レベル資源($\beta=.367$)、事業場レベル資源($\beta=.152$)、資質的レジリエンス($\beta=.188$)だった。

【結論】病院看護師のワーク・エンゲイジメントを高める方策として、職位によって養育や介護、CNS等の資格の有無といった異なる先行要因を持つことが明らかになったため、特性に合わせたワーク・ライフ・バランスを考慮することがあげられた。また、資質的レジリエンスは、唯一、職位に関わらず関連因子として抽出された因子だった。レジリエンスは育成可能な因子で、その教育も行われていることから、部署や組織を超えて交流の幅を広げ、個人の力を発揮する機会を増やすことで、ワーク・エンゲイジメントは高められると考える。看護師を囲む就労環境は厳しい状況だが、看護師が自身、そして組織の強みを用いて問題を解決していくことが、仕事に対するポジティブな認識を高めていくことが示唆された。